太液池遺跡の遺物調査

唐長安城大明宮太液池遺跡の共同発掘調査は2005年春の調査をもって終了しました。しかし、その調査で出土した遺物は量、種類ともに豊富で整理作業は現在も進行中です。都城発掘調査部では中国と共同で出土遺物の調査研究を実施しています。

2007年3月と9月の２度にわたって研究員を現地に派遣し、遺物の調査をおこないました。瓦磚（がせん）類、陶磁器類、石製建築部材について、製作技法、加工技術を調べることを課題とし、多くの基礎資料を作成しました。

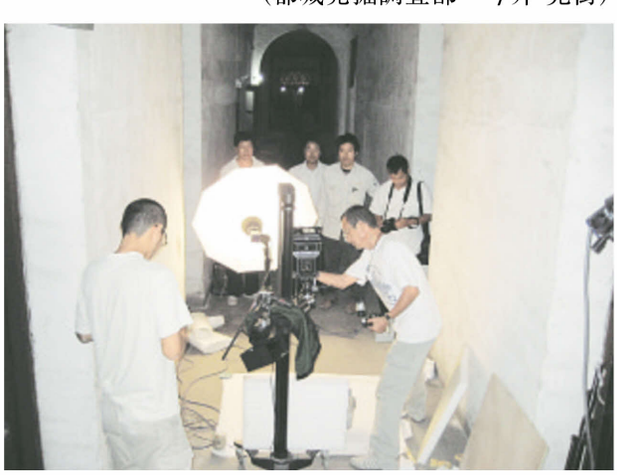
同時に、報告書に掲載するための遺物の写真撮影を実施しました。今回は双方協議の上で、日本側の撮影機材を持ち込み、すべて４×５インチサイズのフィルムで撮影しました。現地では写真撮影の方法についても中国側と相互に意見を交換し、あらたな技術交流の機会を持つことができました。

太液池遺跡から出土した遺物のなかで石製の象や獅子の彫刻、仏像、石灯籠や欄干などはひときわ目を引きます。そこで、西安碑林博物館所蔵の欄干や石灯籠についても実測と撮影をおこない、唐代の彫刻にかんする比較研究資料を作成しました。

調査の合間を縫って、陝西省考古研究所、陝西省歴史博物館、西安碑林博物館、西安博物院、西北大学文博学院などの専門家の方々とも交流を深めました。将来の研究発展のために大いに寄与するものと思います。

今後は遺跡や遺物に対する見解について中国側と意見交換し、報告書作成にむけて作業を進めていく予定です。

（都城発掘調査部　今井 晃樹）



出土遺物の撮影風景